

韓国における最近の中等職業教育改革の動向

——韓国教育科学技術部を訪問して——

横山悦生

2012年3月27日午前11時から午後1時まで、日本の文部科学省にあたる教育科学技術部を訪問した。平生教育局長から、韓国の中等職業教育機関の現状と改革方針について説明をうけた。以下にその概要を紹介する。

中等職業教育機関は、3つの種類の高校から構成される。それは、1. マイスター高校(4年制)、2. 特性化高校(3年制)、3. 総合高校(3年制)、の3つである。

マイスター高校は、2008年9月から始められた新しい高校制度で、その学校の近くにある企業と学校が緊密に連携し、連携した企業に就職させる方向を重視し、100%の就職率を目指しているという。今回の調査では、このカリキュラムまでは入手できなかったが、4年の教育期間を設定しているので、現場実習の比重が大きいことは推測される。現在マイスター高校は28校存在し、全高校数の1.2パーセントを占める。生徒数は、14,040人で、全高校生徒数(1,943,798人)の0.7パーセントを占める。2012年1月の時点で、制度が始まってからの最初の卒業生である最上級生(第4学年)の80パーセント以上が企業への

就職内定をもらっているという。このマイスター高校制度が創設されたのは、1988年以降の経済的不況により、多くの中小企業が倒産し、中等職業教育機関の卒業生の就職が難しくなり、その改善を図ることが目的であったという。

特性化高校は、3年制で、職業高校がこのような名称に最近変更された。この特性化高校は、現在470校存在し、全高校数の20.6パーセントを占める。生徒数は、334,429人で、17.2パーセントを占める。470校の内訳は、農業36校、工業197校、商業情報186校、水産・海運8校、家事・実業43校である。

もう少し細かい分類を示せば、農業は、園芸、造景、食品加工、生物工学、愛玩動物、馬匹管理、ゴルフ、漢薬資源等、工業は、自動化設備、自動車、造船、ロボット、建築、電気機器、情報通信、半導体、医療機器等、商業情報は、金融、証券、会計、電子商去来⁽¹⁾、デザイン等、水産・海運は、海洋レジャー、船舶運航、空調冷凍、海洋資源、海洋産業、水産業、港湾物流等、家事・実業は、美容、観光、調理、幼児教育、看

現行 (2012年680校)
マイスター高校 (28校)
(一般) 特性化高校 (470校)
総合高校 (182校) (一般系+専門系)



体制改編 (2015年 400校)
マイスター高校 (50校)
(産学協力形) 特性化高校 (350校) ・政府部処特性化高校 ⁽²⁾ (150校) ・教育庁支援形特性化高校 (200校)
一般高校 (291校)

護、コンベンション 等である。

総合高校は、専門系学科と普通科とが併設された高校で、182校存在し、全高校数の8.0パーセントを占める。生徒数は、95,869人で、4.9パーセントを占める。総合高校の専門系学科の生徒数は、49,084人である。

以上のマイスター高校、特性化高校、総合高校の専門系学科の学生数を合計すると、397,553人となり、全高校生徒数の20.5パーセントを占める。これらの3つの種類の学校数は680校となり、全体の高校数との対比では、29.8パーセントを占める。

教育科学技術部は、現在ある680校の中等職業教育機関を、以下の図に示すように3年後に400校に減らして、それぞれの教育施設・設備を充実させる方策をとろうとしている。また、後述するような中等職業教育を受けている生徒への支援策、その卒業生の社会的待遇を優遇する政策なども政策的にすすめている。これらについて、以下に5項目に分けて紹介する。

(1) 2011年度から新規の予算(3,160億ウォン)で、特性化高校や総合高校の専門系学生全員に授業料や入学金を支援することになった。さらに、特性化高校の「就職力量」を強化する目的で、進路担当者(コンサルタント)をすべての特性化高校に配置するために、1000人の採用予算を措置した。進路担当者(コンサルタント)には、企業の人事課では働

いた経験のある人、職業訓練センターを退職した人などが担当することになっている。

(2) マイスター高校については、校長を公募で募集し、企業出身の校長を10名採用した。10月3日 首都電気工高(韓国電力)、釜山自動車高(三星自動車)、蔚山マイスター高(豊産金属)、亀尾電子工高(LG電子)、10年9月 東亜マイスター高(三星電子)、11年3月 巨済工高(三星重工業)、釜山海事高(STX)、11年9月 全北機械工高(第一毛織、前 現代自動車)、12年3月 ソウルロボット(KTis)、平海工高(韓水原)

(3) 学校ごとに協力企業と連携し、企業オーダーメイド組(クラス)を実施している。これは、放課後に企業がオーダーメイドした教育課程を実施し、卒業後はそこに就職するような取り組みである。主要な事例を以下に掲げる。

蔚山マイスター高……韓国火薬ケミカル組、三星電気組、豊山金属組など
美林女情報科学高……KT組、KTds組
東亜マイスター高……三星SMD組、ジェームス組、三星電子組など
忠北半導体高……ハイニックス組、セミテック組など
亀尾電子工高……LGイノテック組、LG電子組

(4) 「学歴ではなく能力によって待遇される人事制度」を定着させるために、政府や公共機関から賃金格差を縮小させる方策、職務中心

の人事管理など、高卒一大卒間の勤務条件における差別を漸進的に解消する方策がとられることになった。

- 機能人材を推薦し、採用する制度を実施（機能職公務員特殊採用）
- 特性化高卒業者を一般職9級で採用
- 9級から3級までの昇進所要最低研修を短縮（22年→16年）
- 9級出身公務員の高位職昇進機会を拡大
民間機関での取り組みとしては以下のものがあげられる。

韓電・ガス公社等

- 兵役未畢者も入社可能になるように改善

企業銀行

- 契約職 高卒職員で正規職転換機会を約束するなど高卒処遇改善案を用意

大宇造船海洋

- 高卒者公採進行（2011年～）、4年間社内養成教育実施
- 高卒社員と大卒社員をまったく同じように待遇する新しい人事制度を導入

關山グループ

- 生産職職員も役員昇進することができる人事制度用意

LG DISPLAY

- 生産ライン勤務機能職のために「専門

委員」「役員」などの職級を新たに追加

(5) 高卒者が職場に通いながら希望する場合にさらに学習することができる多様な制度を用意した。具体的には以下に示すものである。在職者特別選考大学拡大（2011年7校、2012年23校、2013年40校）、在職者オーダーメイド型サポートを強化、社内大学入学許可の枠を拡大して、再教育の訓練費を支援、放送大学、サイバー大学などにより、産業現場在職者のための教育課程の拡大、サイバー大学特性化高支援事業（2012年度から予算措置（13.6億ウォン））——これは、特性化高、マイスター高の卒業生のための特性学科を新設する、あるいは教育課程を改変する場合にサイバー大学を支援するための予算措置である。このような制度は、職業高校を卒業して、先ず就職し（「先就職」）、その後、さらに学習したい場合は、大学や企業内大学などでさらに学習をして（「後進学」）、キャリアアップを図ることを推進しようとしているということであった。

これらについては、当日配布された資料の表を以下に示す。

以上に述べたような政策には目を見張るものがある。韓国では、政策側からの、つまり上からの改革が急速に進められている。この政策によって、特性化高、総合校（専門系学科）の卒業生の進路状況が大きく変わり、就

〈系列別先就職後進学経路（例示）〉

系列	先就職	後進学	経歴開発	学校
農生命産業	韓国生命科学高	営農組合	慶北大（在職者特別詮衡）	自営農
工業	巨済工高	三星重工業	三星重工業社内大学（専門学士） →釜山大契約学科（学士）	技術士 →CTO →創業
商業情報	ソウル女商	企業銀行	中央大（在職者特別詮衡）	管理者 →支店長
水産・海運	仁川海洋科学高	海運会社	韓国海洋大（契約学科、在職者特別詮衡）	一等航海士 管理者
家事・実業	韓国外食科学高	プラザホテル	京民大（産業界委託教育）	料理師